

高知県感染症発生動向調査（週報）

2025年 第32週 （8月4日～8月10日）

★県内での感染症発生状況

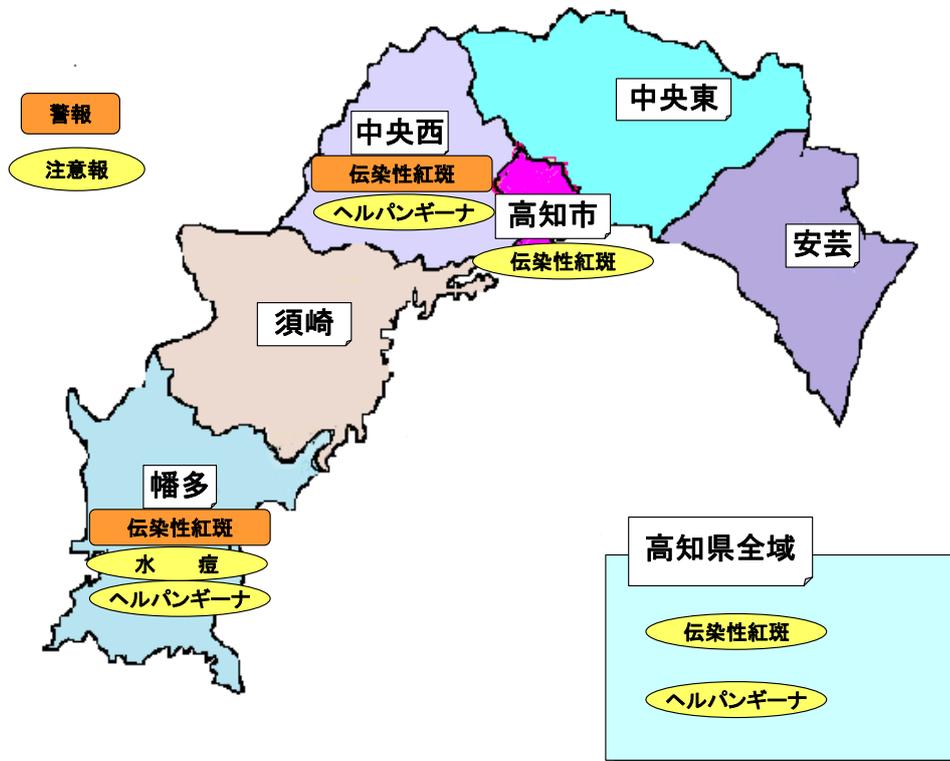
急性呼吸器感染症及び小児科定点把握感染症（上位5疾患）

疾病名	推移	定点当たり 報告数	保健所管内別の傾向
新型コロナウイルス感染症	▲	7.00	中央西で急増、中央東、安芸で増加していますが、須崎、幡多で減少しています。
ヘルパンギーナ	→	2.15	安芸で急増、中央西、中央東で増加していますが、須崎で急減、幡多で減少しています。
感染性胃腸炎	→	2.10	幡多、中央西で急増していますが、中央東で急減、高知市で減少しています。
RSウイルス感染症	→	1.90	中央東、幡多で増加しています。
伝染性紅斑	→	1.30	中央西、須崎、中央東で急増しています。

<推移の基準>

急増	▲	前週と比較し、2倍以上の場合	減少	▼	前週と比較し、0.5倍以上～0.8倍未満の場合
増加	▲	前週と比較し、1.2倍以上～2倍未満の場合	急減	▼	前週と比較し、0.5倍未満の場合
横ばい	→	前週と比較し、0.8倍以上～1.2倍未満の場合			

★地域別警報・注意報状況



★週報の発行日

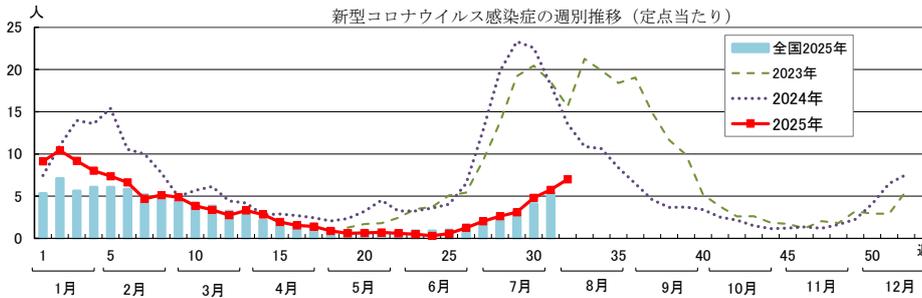
週報は、毎週「木曜日」の午後3時30分以降に発行します。

ただし、「火曜日」「水曜日」「木曜日」が祝日の場合は、「金曜日」になります。

★気になる感染症

新型コロナウイルス感染症

週数	新規感染者数	定点当たり感染者数
第28週 7/7～7/13	100	2.63
第29週 7/14～7/20	118	3.11
第30週 7/21～7/27	183	4.82
第31週 7/28～8/3	219	5.76
第32週 8/4～8/10	266	7.00



県内全国共に、6月下旬から増加傾向となっています。

高齢者や基礎疾患のある方が感染すると重症化するおそれがありますので、高齢の方と会ったり、通院するときは、マスクの着用など感染対策をお願いします。

●予防方法・注意点

- *手洗い、十分な換気、密接、密集、密閉といったいわゆる「三密」を避けるなどの基本的な感染対策をお願いします。
- *医療機関や高齢者施設など重症化リスクの高い方々が集まる場所を訪れる場合は、当該施設の定めるルールに従い、必要に応じてマスクの着用をお願いします。
- *発熱等の症状のある方は、出勤や登校を控え、マスクを着用のうえ、医療機関を受診（特に高齢者・基礎疾患を有する方）しましょう。

●学校感染症

学校保健安全法（同法施行規則第19条）では、出席停止期間の基準が「発症した後5日を経過（発症日を0日目とカウント）し、かつ、症状が軽快した後1日を経過（軽快した日を0日目とカウント）するまで」と規定される学校感染症（第2種）です。

百日咳

高知県の報告数は第25週から減少傾向となっていますが、過去の報告数と比較すると多い状態が続いています。現在1,131件（2025年1月1日から8月13日までの累計速報値）となっており、全ての年齢層からの報告がみられます。

また、大きな流行となり始めた4月から6月に実施した薬剤耐性に関する調査では、28%（17/60検体）が治療薬であるマクロライド系抗菌剤に耐性を示す百日咳菌でした。

年間報告数

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
高知県	173	172	33	3	9	7	5	1,131
全国	12,115	16,845	2,819	707	491	1,000	4,093	60,826

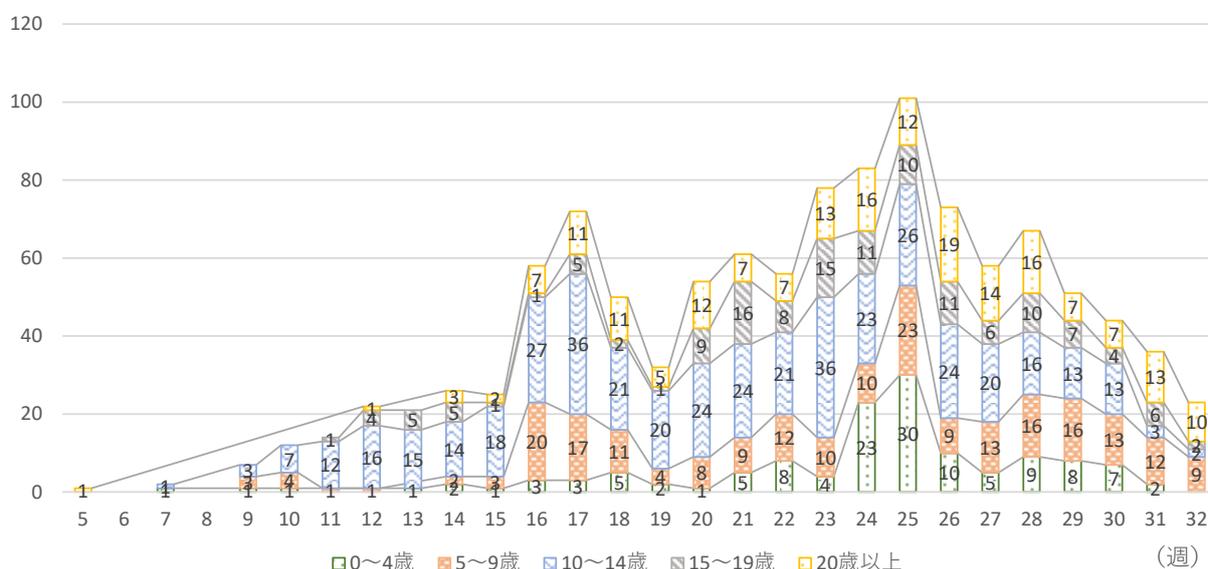
年齢別・保健所管内別報告数

(受理週で集計)

保健所	年齢					総計
	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20歳以上	
安芸	0	1	7	1	0	9
中央東	1	9	29	11	15	65
高知市	38	158	298	95	142	731
中央西	1	7	14	11	8	41
須崎	2	27	53	9	4	95
幡多	90	26	34	14	26	190
総計	132	228	435	141	195	1,131

(受理週で集計)

(人) 2025年 高知県百日咳報告数 (週別年齢別)



症状

- ① 通常 7～10 日の潜伏期を経て、通常の風邪症状となり、次第に咳の回数が増え、程度も激しくなります (カタル期)。
- ② 短い咳が連続的に起こり (スタッカート)、続いて息を吸う時に笛の音のようなヒューという音が出ます (ウープ)。この様な咳嗽発作が繰り返すことをレプリーゼといい、しばしば嘔吐を伴います (痙咳期)。
- ③ 激しい発作は次第に減衰し、2～3 週間で認められなくなりますが、その後、時折発作性の咳が出て、全経過約 2～3 ヶ月で回復します (回復期)。

感染力が強く、咳やくしゃみなどによる飛沫や接触により感染します。乳児の場合、無呼吸発作など重篤になることがあり、生後 6 か月未満では死に至る危険性があります。成人では、咳は長期間続きますが、比較的軽い症状で経過することが多く、受診・診断が遅れることがあります。患者や百日咳にかかったと気づかない大人から、重症化しやすいワクチン未接種の新生児や乳児へ感染することもあるので注意してください。

●予防方法

- * 人混みはなるべく避け、外出時にはマスクを着用しましょう。帰宅時には、手洗いを励行しましょう。
- * 定期予防接種があります。ワクチンは生後 2 ヶ月から接種可能なので、かかりつけ医と相談し、出来るだけ早く受けておくことをお勧めします。

●学校感染症

百日咳は、学校保健安全法（同法施行規則第18・19条）では、学校感染症（第2種）に位置づけられており、「特有の咳が消失するまで又は5日間の適切な抗菌薬療法が終了するまで出席停止」とされています。ただし、病状により感染の恐れがないと認められたときはこの限りではありません。

●参考

*百日咳（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/whooping_cough.html

ダニの感染症(SFTS・日本紅斑熱)

「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」や「日本紅斑熱」は、屋外に生息する比較的大型（吸血前で3～4mm）の「マダニ」が媒介する感染症です。

マダニは、春から秋にかけて活動が活発になります。この時期は、人も農作業やレジャーなど野外での活動が多くなることから、マダニが媒介する感染症のリスクが高まります。（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

また、ネコやイヌなどの動物が感染、発症した場合、その血液や唾液などの体液に直接接触することで感染する可能性があります。ペットの健康状態の変化に注意し、体調不良の際には、咬まれたり舐められたりしないように注意してください。必要な場合は動物病院を受診しましょう。また、ペットがマダニに咬まれないようダニ駆除剤を使用することも有効です。獣医師に相談しましょう。

●予防方法

*マダニに「咬まれないようにする」ことが予防策になります。

*野山や畑などに出る時には、長袖・長ズボンを着用し、肌の露出を避けましょう。

*忌避剤（虫よけ剤）を効果的に使用しましょう。（説明書の注意書に沿って使用してください。）

*野外活動後はダニに咬まれていないか確認しましょう。

*飼っているネコやイヌが外で咬まれることもあります。ブラッシング等をこまめにしてマダニを持ち込まないようにしましょう。

*体調不良のペットに触れたときは、手洗いを心がけてください。

●発熱等の症状が出た場合

*野山に入って数日～数週間経過した後、発熱等の症状が出た場合は、医療機関を受診してください。

*受診の際は、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれた可能性）を伝えてください。

●参考

*重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関するQ&A（厚生労働省）

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/sfts_qa.html

*高知県衛生環境研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット

<https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2024022700074/>

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所	
2類	結 核	1	35	70歳代 女性	安 芸	
5類	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1	8	90歳代 女性	中央東	
		1		90歳代 女性	高知市	
5類	百日咳	1	1113	20歳代 男性	中央東	
		6		5～9歳 男性	高知市	
		1		5～9歳 女性		
		2		15～19歳 女性		
		1		30歳代 女性		
		1		40歳代 男性		
		1		50歳代 男性		
		1		50歳代 女性		
		1		60歳代 男性		
		1		5～9歳 女性		須 崎
		1		5～9歳 男性		幡 多
		1		20歳代 男性		

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情 報
中央東	いちほら内科・小児科	百日咳1例(7歳男) マイコプラズマ感染症2例(11歳男、12歳女)
	JA高知病院小児科	RSウイルス感染症9例 アデノウイルス感染症2例 COVID-19 1例 カンピロバクター腸炎1例 ヘルパンギーナ3例 突発性発疹1例 第31週 マイコプラズマ(Lamp 珪)11例
高知市	けら小児科・アレルギー科	マイコプラズマ感染症10例 (3歳、7歳、9歳2人、10歳3人、12歳2人、13歳) COVID-19 22例 RSウイルス感染症18例 百日咳3例(7歳、14歳、16歳)
	福井小児科・内科・循環器科	溶連菌感染症6例 ヘルパンギーナ7例 手足口病5例 伝染性紅斑7例 COVID-19 8例
	ふないキッズクリニック	マイコプラズマ感染症1例(13歳男)
	細木病院小児科	マイコプラズマ感染症3例(4歳女、5歳男、7歳女) マイコプラズマ肺炎3例(7歳女、9歳男、12歳女) 百日咳(6歳男) RSウイルス感染症2例 手足口病3例 ヘルパンギーナ4例 COVID-19 3例
中央西	くぼたこどもクリニック	手足口病1例(1歳女：土佐市) 百日咳1例(17歳女) 感染性胃腸炎4例(内1歳女、4歳男：県外から帰省) Covid-19 4例 マイコプラズマ感染症5例 (3歳男、9才男2人、10歳男、12才女)

保健所	医療機関	情報
須崎	もりはた小児科	インフルエンザ A 型 4 例 COV-19 2 例 マイコプラズマ肺炎 1 例 (4 歳) ※百日咳なし
幡多	こいけクリニック	アデノウイルス咽頭炎 1 例 (5 歳男)

★注目すべき感染症

手足口病・ヘルパンギーナ

2025年第1～30週 (2025年7月30日現在)

手足口病およびヘルパンギーナは、口腔粘膜の水疱性の発疹および発熱を主症状とし、乳幼児を中心に罹患するエンテロウイルス感染症である。わが国では、いずれも感染症法に基づく5類感染症の小児科定点把握疾患に分類されており、2025年4月6日以前は全国約3,000カ所、4月7日以降は全国約2,000カ所の定点から、臨床診断による患者数が毎週報告される。手足口病は「手のひら、足底または足背、口腔粘膜に出現する2～5mm程度の水疱」と「水疱は痂皮を形成せずに治癒」の2つの臨床症状を、ヘルパンギーナでは「突然の高熱での発症」と「口蓋垂付近の水疱疹や潰瘍や発赤」の2つの臨床症状を満たす患者が報告される。一般的には予後良好であるが、手足口病の一部の症例では重症化し、乳幼児が中枢神経合併症、神経原性肺水腫、心肺機能不全を呈した場合には死亡することもある。両疾患とも感染経路は主として飛沫感染、接触感染であるため、手洗いの励行と排泄物の適正な処理が重要である。わが国の手足口病の病原ウイルスは、エンテロウイルスであるコクサッキーウイルスA6 (CA6)、A16 (CA16)、A10 (CA10)、エンテロウイルス71 (EV71) などである。ヘルパンギーナでは主にコクサッキーウイルスA群である場合が多いが、コクサッキーウイルスB群やエコーウイルスが原因となる場合もある。手足口病・ヘルパンギーナともに、治療は原則として対症療法のみである。

手足口病、ヘルパンギーナともに毎年夏期に流行がみられる疾患である。

流行年における手足口病の発生動向は、過去10年において、新型コロナウイルス感染症の流行年を除き、全国の動向としては第20週ごろに増加が確認され、第30週ごろに定点当たり報告数10.0程度のピークに達した後、第40週ごろには1.0程度に低下し、第48～50週ごろにはほぼ終息していた。2024年は第28週のピーク (定点当たり報告数13.34、報告数41,885例) に続き、第41週にも定点当たり報告数10.78 (33,760例) と二峰性を呈したことが特徴的であった。

2025年の報告は、例年より低調で、第20週から定点当たり報告数0.13 (305例) と増加しはじめたものの、その増加は緩徐で、第30週時点でも0.59 (1,380例) と、大きな流行は確認されていない。

ヘルパンギーナの発生動向は、新型コロナウイルス感染症の流行年を除き、第20週ごろより増加が確認され、第30週ごろに定点当たり報告数3.0～4.0程度のピークに達した後、比較的速やかに減少し、第48～50週ごろには終息していた。

2025年のヘルパンギーナの報告は、例年と同様に、第23週より定点当たり報告数が0.19 (447例) と増加しはじめ、第26週には1.02 (2,398例)、第29週には1.87 (4,401例) と上昇し、第30週では1.63 (3,852例) であった。過去10年において最も高いピーク値は2023年第27週の定点当たり報告数7.32 (22,980例) であり、2025年の状況は例年と同程度、あるいは少ない流行規模である。

新型コロナウイルス感染症の流行後、様々な感染症で不規則な流行が確認されている。2024年の手足口病では二峰性を示し、これらの主な検出ウイルスは最初のピークでCA6、次のピークでCA16であった。2025年はおおむね例年と同様の発生動向で、大きな流行は確認されていないが、本年も引き続き、従来の流行時期である夏季以降もその発生動向に注視する必要がある。また、ヘルパンギーナも例年と同程度であるが、今後の発生動向の把握が重要である。

(国立健康危機管理研究機構 IDWR2025 年 30 号より)

発行：高知県感染症情報センター (高知県衛生環境研究所)

〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1 高知県保健衛生総合庁舎2階

TEL : 088-821-4961 FAX : 088-821-4696

※この情報に記載のデータは 2025 年 8 月 12 日現在の情報により作成しています。

★高知県感染症情報 疾病別・地域別報告数

高知県感染症情報（49定点医療機関）

第32週 令和7年8月4日（月）～令和7年8月10日（日）

高知県衛生環境研究所

定点名 (定点数)	疾病名等	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(31週)	高知県(32週未累計) R6/12/30~R7/8/10	全国(31週未累計) R6/12/30~R7/8/3
急性呼吸器 感染症 (38)	急性呼吸器感染症(ARI)*		64	265	857	143	71	185	1,585 (41.71)	1,688 (44.42)	202,888 (52.82)	25,754 (677.74)	3,566,949 (927.69)
	インフルエンザ			2				1	9 (0.24)	4 (0.11)	1,153 (0.30)	7,986 (210.16)	622,564 (144.51)
	新型コロナウイルス 感染症		20	54	97	59	15	21	266 (7.00)	219 (5.76)	21,365 (5.53)	4,972 (130.84)	445,470 (103.41)
小児科 (20)	咽頭結膜熱				2			1	3 (0.15)	5 (0.25)	1,041 (0.44)	167 (8.35)	33,128 (12.34)
	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎			2	14	2	1	3	22 (1.10)	33 (1.65)	4,221 (1.79)	1,578 (78.90)	187,829 (69.98)
	感染性胃腸炎		1	19	4	3		15	42 (2.10)	49 (2.45)	11,236 (4.77)	2,792 (139.60)	578,374 (215.49)
	水痘							4	4 (0.20)	5 (0.25)	722 (0.31)	102 (5.10)	29,231 (10.89)
	手足口病				13	1		3	17 (0.85)	17 (0.85)	1,474 (0.63)	259 (12.95)	14,957 (5.57)
	伝染性紅斑			1	12	5	1	7	26 (1.30)	22 (1.10)	4,583 (1.95)	546 (27.30)	103,874 (38.70)
	突発性発疹			2	2				4 (0.20)	5 (0.25)	795 (0.34)	172 (8.60)	22,125 (8.24)
	ヘルパンギーナ		1	4	15	9	1	13	43 (2.15)	47 (2.35)	4,517 (1.92)	640 (32.00)	26,481 (9.87)
	流行性耳下腺炎								()	1 (0.05)	104 (0.04)	28 (1.40)	4,424 (1.65)
	RSウイルス感染症			10	25				38 (1.90)	35 (1.75)	1,629 (0.69)	543 (27.15)	58,135 (21.66)
眼科 (3)	急性出血性結膜炎								()	()	9 (0.01)	()	853 (1.23)
	流行性角結膜炎								()	()	630 (0.90)	27 (9.00)	17,413 (25.13)
基幹 (8)	細菌性髄膜炎								()	()	12 (0.02)	2 (0.25)	289 (0.60)
	無菌性髄膜炎								()	1 (0.13)	41 (0.09)	6 (0.75)	528 (1.10)
	マイコプラズマ肺炎				8			2	10 (1.25)	11 (1.38)	478 (0.99)	169 (21.13)	7,733 (16.11)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)								()	()	1 ()	()	67 (0.14)
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)								()	()	1 ()	22 (2.75)	1,726 (3.60)
計 (ARIを除く)		21 (7.67)	76 (13.00)	207 (21.83)	80 (25.25)	27 (8.25)	73 (21.46)	484 (18.44)			54,012	20,011 (682.35)	2,155,201
前週 (ARIを除く)		13 (4.33)	53 (10.47)	246 (26.40)	33 (11.25)	32 (11.00)	77 (21.10)		454 (18.33)				

*ARIの定義：医師が感染症を疑う外来症例で、かつ発症から10日以内の急性症状（咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上）を呈している症例
*ARIの集計法：上記症状の患者を集計するため、インフルエンザやCOVID-19、咽頭結膜熱等の患者と重複している場合があります

注 () は定点当たり人数

高知県感染症情報（49定点医療機関） 定点当たり人数

第32週

定点名 (定点数)	疾病名等	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(31週)	高知県(32週未累計) R6/12/30~R7/8/10	全国(31週未累計) R6/12/30~R7/8/3
急性呼吸器 感染症 (38)	急性呼吸器感染症(ARI)*		21.33	37.86	65.92	35.75	17.75	26.43	41.71	44.42	52.82	677.74	927.69
	インフルエンザ			0.29			1.50	0.14	0.24	0.11	0.30	210.16	144.51
	新型コロナウイルス 感染症		6.67	7.71	7.46	14.75	3.75	3.00	7.00	5.76	5.53	130.84	103.41
小児科 (20)	咽頭結膜熱				0.25			0.33	0.15	0.25	0.44	8.35	12.34
	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎			0.50	1.75	1.00	0.50	1.00	1.10	1.65	1.79	78.90	69.98
	感染性胃腸炎			0.25	2.38	2.00	1.50	5.00	2.10	2.45	4.77	139.60	215.49
	水痘							1.33	0.20	0.25	0.31	5.10	10.89
	手足口病				1.63	0.50		1.00	0.85	0.85	0.63	12.95	5.57
	伝染性紅斑			0.25	1.50	2.50	0.50	2.33	1.30	1.10	1.95	27.30	38.70
	突発性発疹			0.50	0.25				0.20	0.25	0.34	8.60	8.24
	ヘルパンギーナ		1.00	1.00	1.88	4.50	0.50	4.33	2.15	2.35	1.92	32.00	9.87
	流行性耳下腺炎									0.05	0.04	1.40	1.65
	RSウイルス感染症			2.50	3.13			1.00	1.90	1.75	0.69	27.15	21.66
眼科 (3)	急性出血性結膜炎										0.01		1.23
	流行性角結膜炎										0.90	9.00	25.13
基幹 (8)	細菌性髄膜炎										0.02	0.25	0.60
	無菌性髄膜炎									0.13	0.09	0.75	1.10
	マイコプラズマ肺炎				1.60			2.00	1.25	1.38	0.99	21.13	16.11
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)												0.14
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)											2.75	3.60
計 (ARIを除く)		7.67	13.00	21.83	25.25	8.25	21.46	18.44			682.35		
前週 (ARIを除く)		4.33	10.47	26.40	11.25	11.00	21.10		18.33				

*ARIの定義：医師が感染症を疑う外来症例で、かつ発症から10日以内の急性症状（咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上）を呈している症例
*ARIの集計法：上記症状の患者を集計するため、インフルエンザやCOVID-19、咽頭結膜熱等の患者と重複している場合があります

疾病別・年齢別報告数

高知県感染症情報（49定点医療機関）		疾病別・年齢別報告数													2025年					32w		
定点 (定点数)	疾病名等	合計	0歳	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70歳以上				
急性呼吸器感染症(ARI)* (38)	急性呼吸器感染症(ARI)*	1,585	137	501	329	135	66	52	53	46	41	62	76	87								
定点 (定点数)	疾病名等	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上
急性呼吸器感染症(38)	インフルエンザ	9			1	2		1	1							1		1			1	1
	新型コロナウイルス感染症	266	1	1	7	3		1	4		4	3	1	9	10	29	22	30	30	36	25	50
定点 (定点数)	疾病名等	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上
小児科(20)	咽頭結膜熱	3		1	2																	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	22			1	1	1	3	2	1	1	3	1	6								2
	感染性胃腸炎	42		3	8	5	1	6	6	3	1	3		2								4
	水痘	4										2	2									
	手足口病	17			5	6	2		1	2	1											
	伝染性紅斑	26				7	4	5	4	2	2	1			1							
	突発性発疹	4			3	1																
	ヘルパンギーナ	43	1	2	9	13	4	5	2	1	1	1	2	1	1							
	流行性耳下腺炎																					
RSウイルス感染症	38	2	5	25	3	3																
定点 (定点数)	疾病名等	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	
眼科(3)	急性出血性結膜炎																					
	流行性角結膜炎																					
定点 (定点数)	疾病名等	合計	0歳	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70歳以上				
基幹(8)	細菌性髄膜炎																					
	無菌性髄膜炎																					
	マイコプラズマ肺炎	10			3	1	3	3														
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)																					
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)																					

*ARIの定義：医師が感染症を疑う外来症例で、かつ発症から10日以内の急性症状（咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上）を呈している症例

*ARIの集計法：上記症状の患者を集計するため、インフルエンザやCOVID-19、咽頭結膜熱等の患者と重複している場合があります

疾病別年次報告数推移 2025年第32週

(急性呼吸器感染症定点・小児科定点・眼科定点)

